

CASBEE-広島（2010年ver.1）

高陽ニュータウン病院

用途等で評価が不要となる項目について
は、自動的に網掛けが入ります

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版

■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質							3.2
Q1 室内環境				0.40			3.4
1 音環境			2.7	0.15	3.2	1.00	2.8
1.1 騒音		間仕切り壁を二枚貼りでスラブ下まで立上げ	3.0	0.40	5.0	0.40	
1 暗騒音レベル			3.0	1.00	5.0	1.00	
2 設備騒音対策			-	-	-	-	
1.2 遮音			2.4	0.40	2.7	0.40	
1 開口部遮音性能			3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能			2.0	0.60	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音			3.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境				2.7	0.35	2.1	
2.1 室温制御		個別設定可能なシステム	3.2	0.50	2.1	0.50	
1 室温設定			3.0	0.38	3.0	0.57	
2 負荷変動・追従制御性			-	-	-	-	
3 外皮性能			1.0	0.25	1.0	0.43	
4 ゾーン別制御性			5.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御			-	-	-	-	
6 個別制御			-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮			-	-	-	-	
8 監視システム			-	-	-	-	
2.2 湿度制御			1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式		マルチエアコンシステム	3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境			3.8	0.25	3.8	1.00	3.8
3.1 屋光利用		整形な居室形状	4.2	0.30	4.2	0.30	
1 屋光率			5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口			-	-	3.0	-	
3 屋光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策			3.0	0.30	3.0	0.30	
1 照明器具のグレア			-	-	-	-	
2 屋光制御			3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15	
1 照度			3.0	1.00	3.0	1.00	
2 照度均斉度			-	-	-	-	
3.4 照明制御		一括管理可能なシステム	5.0	0.25	5.0	0.25	
4 空気質環境			4.7	0.25	4.5	1.00	4.6
4.1 発生源対策		F☆☆☆☆の材料を使用。ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ない建材を全面的に採用	5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質			5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策			-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等			-	-	-	-	
4 レジオネラ対策			-	-	-	-	
4.2 換気			4.0	0.30	3.6	0.38	
1 換気量			5.0	0.50	5.0	0.33	
2 自然換気性能			3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画			-	-	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-		
2 喫煙の制御		建物内全面禁煙	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	3.7
1 機能性			3.8	0.40	4.8	1.00	4.0
1.1 機能性・使いやすさ		個室10㎡/床以上、多床室8㎡/床以上	3.0	0.60	5.0	0.60	
1 広さ・収納性			3.0	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性			5.0	0.40	4.5	0.40	
1 広さ感・景観			3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	
3 内装計画			5.0	1.00	5.0	0.50	
1.3 維持管理			-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性			3.4	0.31	-	-	3.4
2.1 耐震・免震		重要度係数1.25	3.8	0.48	-	-	
1 耐震性			4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23	-	-	

	2.3 適切な更新			-	-	-	-	
	2.4 信頼性			3.4	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備	非常時に備えた対応	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	非常時に備えた対応	3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	非常時に備えた対応	4.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	サーバー室の設置	4.0	0.20	-	-	
	3 対応性・更新性			3.6	0.29	3.2	1.00	3.5
	3.1 空間のゆとり			4.0	0.31	3.4	0.50	
	1	階高のゆとり	各階の用途に合わせた階高の設定	4.0	0.60	3.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	部屋の広さに合わせた天井高の設定	4.0	0.40	4.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.8	0.38	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	2	給排水管の更新性	適切な天井裏空間と点検口	4.0	0.17	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	5	設備機器の更新性	適切な天井裏空間と点検口	5.0	0.22	-	-	
	6	バックアップスペース	屋上設置、適切な機械室の広さ	4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	-	2.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	玄関までのアプローチを開放的にする建物配置、ピロティ、車寄せの設置	1.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	敷地内の緑化、既設樹木の活用	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	-	3.6
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	-	3.0
	2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
	2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=44.7	5.0	0.30	-	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	-	3.0
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	-	3.4
	1.1	節水	節水機器の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
	2	雑排水再利システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.63	-	-	-	2.9
	2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	既存建物改修	4.0	0.24	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	GL工法と乾式間仕切り	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-	-	3.2
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	F☆☆☆☆材料の採用	3.0	0.32	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-	
	1	消火剤	スプリンクラー設置	4.0	0.33	-	-	
	2	断熱材		3.0	0.33	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		敷地内の緑化。建物の配置計画	5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	-	2.4
	2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.6	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.2	0.33	-	-	-	2.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	0.33	-	-	
	2	振動		3.0	0.33	-	-	
	3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
	3.2	風害、日照阻害の抑制		1.9	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
	2	日照阻害の抑制	第一種住居専用地域への配慮、地盤面高低差の検討配慮	4.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		1.6	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	